

奄美野生生物保護センター  
ニュースレター

# 奄美の風だより



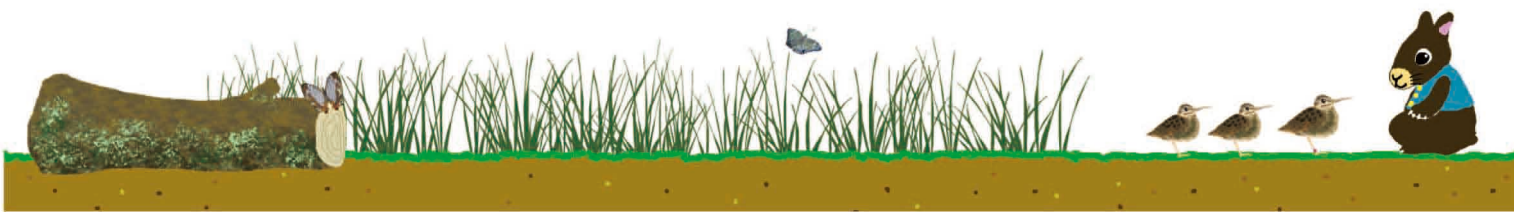
オリコキクガシラコウモリ

9月に入り、朝晩すっかり涼しくなって、秋を感じさせます。また、体育大会や豊年祭などの準備が忙しい時期となりました。

さて、最近個人的に気になっているコウモリについて話をさせていただきます。奄美群島で記録されている種は、オリオオコウモリ、リュウキュウテングコウモリ、ヤンバルホオヒゲコウモリ、オリコキクガシラコウモリ、リュウキュウユビナガコウモリ、アブラコウモリ、スミイロオヒキコウモリ、モモジロコウモリの8種です。しかし、捕獲例がほとんどなく、生態がよく分かっていない種や最近見つかった新種もあり、奄美ではなかなか研究が進んでいない分野のようです。

新しい発見をするのは、研究者だけではありません。一般の方からの情報が新しい発見につながることもあります。沖永良部島で平成23年6月に生きたオリオオコウモリが初めて見つかりましたが、発見したのは、町役場の方だそうです。

さまざま視点から自分たちの島を観察してみてください。もしかして、それが世紀の大発見につながるかもしれませんよ！  
(吉田)



# 今の時期に見られる動植物



ハマゴウ

砂浜の日当たりのよい場所に生える落葉小低木。花期は6～10月。葉は楕円形で、裏面は白い短毛が密生して灰白色。



ダイサギソウ

山地の日当たりのよい林縁に生える。美しい白色花をシラサギの飛び姿に見立てたのが名前の由来。採取され数を減らしている。



アマミヒラタヒシバッタ

湿った沢沿いや林床の落葉上に生息し、よく樹上に登る。イボ状の突起があり、体型はひし形。奄美大島・徳之島に分布。



アマミヘリグロツユムシ

林内に生息し、樹上性。羽のふちに黒い帯がある。沖永良部島に生息しているものは、別種になる可能性があるらしい。



## 今季の一枚 「クワガタムシ」

奄美群島には10種類のクワガタムシが生息しています。ちなみにカブトムシは「アマミコカブトムシ」「クロマルカブトムシ」のみ。なお、台湾カブトムシは外来生物です。

夏を代表する虫として、海外産・日本産のものがスーパーなどで簡単に手に入るようになりました。しかし、日本産と言っても本州や九州に生息するもので、奄美群島に生息していないものが数多くあります。海外産は当たり前ですが、日本産のものでも奄美では「外来生物」となる場合がありますので、野外には決して放さないで下さい。



# 奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。



## 今回は 和泊町 です



和泊町は、南は太平洋、北は東シナ海に面した沖永良部島の東北部に位置し、産業は農業が中心で、近年は観光にも力をいれています。

### 【テッポウユリ】

### 和泊町の花

明治32年から栽培がはじまり、海外へも輸出されています。花言葉は「清純」。その香りは人々の心を和ませます。



### おすすめ

## 観光名所「日本一のガジュマル・ウミガメビューポイント・西郷南洲記念館」

また、新日本銘木白選で選ばれており、島ではガジュマルの木を防風林に、また、盆栽としても愛用されています。

**【日本一のガジュマル】**  
ガジュマルは本町の町木で、昭和55年5月指定されました。大地に根を張り、力強く伸びる雄姿は、躍進する和泊の姿でもあります。  
国頭小学校にあるガジュマルは、根回り8メートル、円形に広がった枝張りの直径22メートルという大きなもので、枝振りは日本一と言われ、樹齢100年を過ぎています。  
1898年（明治31年）の第1回卒業生が植樹したガジュマルの木です。



調査をした沖永良部島ウミガメネットワークは、2006年に地元有志を中心に結成され、ウミガメの上陸や産卵を調査したり、砂浜の清掃や子ども達への観察会を実施するなど、ウミガメの保護を通じた自然環境保全に取り組んでいます。

**【ウミガメビューポイント】**  
昨年完成したこのポイントは、他では類を見ない眺望で、一年を通じてアオウミガメの若い個体が回遊し、リーフ内に生育する豊かな海藻類をついばむ姿が、満潮時の最盛期には20頭ほど肉眼で確認できます。その光景をより身近に感じられるよう、望遠鏡を設置しました。  
このように、島の沿岸部には年間を通じてウミガメが棲息し、陸上からウミガメを気軽に観察できるポイント（フーチャ・畦布海岸等）も所在し、世界的にも稀だということに注目されており、平成23年11月18日から20日まで、日本ウミガメ協議会主催の第22回日本ウミガメ会議が沖永良部島で開催されました。



**【西郷南洲記念館】**  
島津久光公の怒りにふれた西郷南洲翁は沖永良部島へ流罪となりました。文久2年8月から元治元年2月まで（1862年〜1864年）1年6か月の間、牢居されました。和泊町は、「敬天愛人」の大思想発祥の地と言われており、南洲翁はその間本町の子弟の教育に尽力し、多くの優れた人材を輩出しました。その教えが島の教育、文化に大きな影響を与え、祖先を敬い、勤労を尊び、明るく豊かな心を育み、花を愛で育てる風土が先人たちから受け継がれています。

本町では、南洲翁の遺徳を慕って、平成23年7月、西郷南洲謫居の地に西郷南洲記念館をオープンしました。この記念館では、西郷隆盛の沖永良部島での1年半の獄中生活を紹介しながら、翁の遺訓と盛徳を顕彰しています。  
また、今年は南洲翁上陸150周年の節目の年を迎えるため、11月には記念イベントも計画されています。

# いきもののふしぎ ~ウミガメのはなし~

鹿児島県は、ウミガメの産卵上陸数が日本一です。しかし、奄美大島などでは、調査があまり行われていません。ウミガメについて興味を持ち、理解を深めましょう。



## ウミガメとは？

爬虫類カメ目ウミガメ科・オサガメ科の総称です。全てのウミガメが、IUCN（世界自然保護連合）のレッドリストにおいて絶滅危惧種に指定されており、またワシントン条約では、国際取引が規制されています。



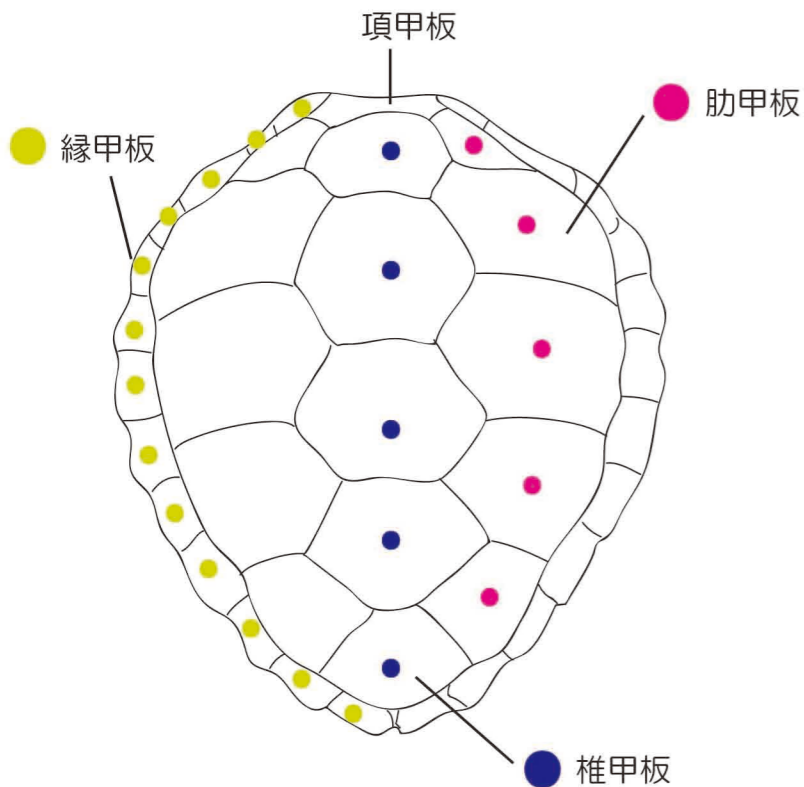
## ウミガメの生態

世界には7種類のウミガメがいます。日本近海に生息しているウミガメは、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、オサガメの4種です。その中で、日本を主な産卵場所に行っているのは、アカウミガメとアオウミガメです。この2種類について詳しく見ていきましょう。

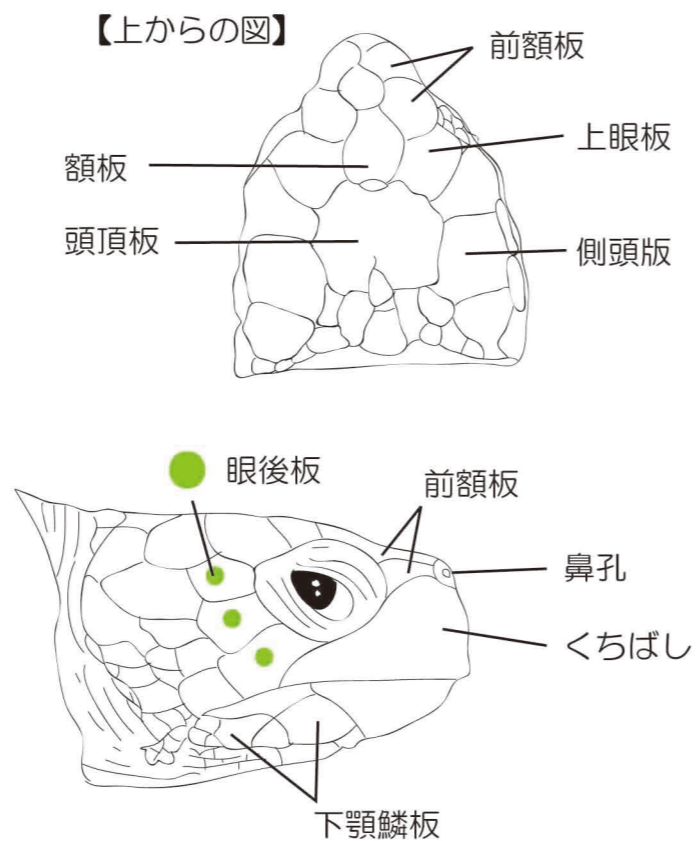
## 形態

ウミガメの各部位について。

### 甲羅

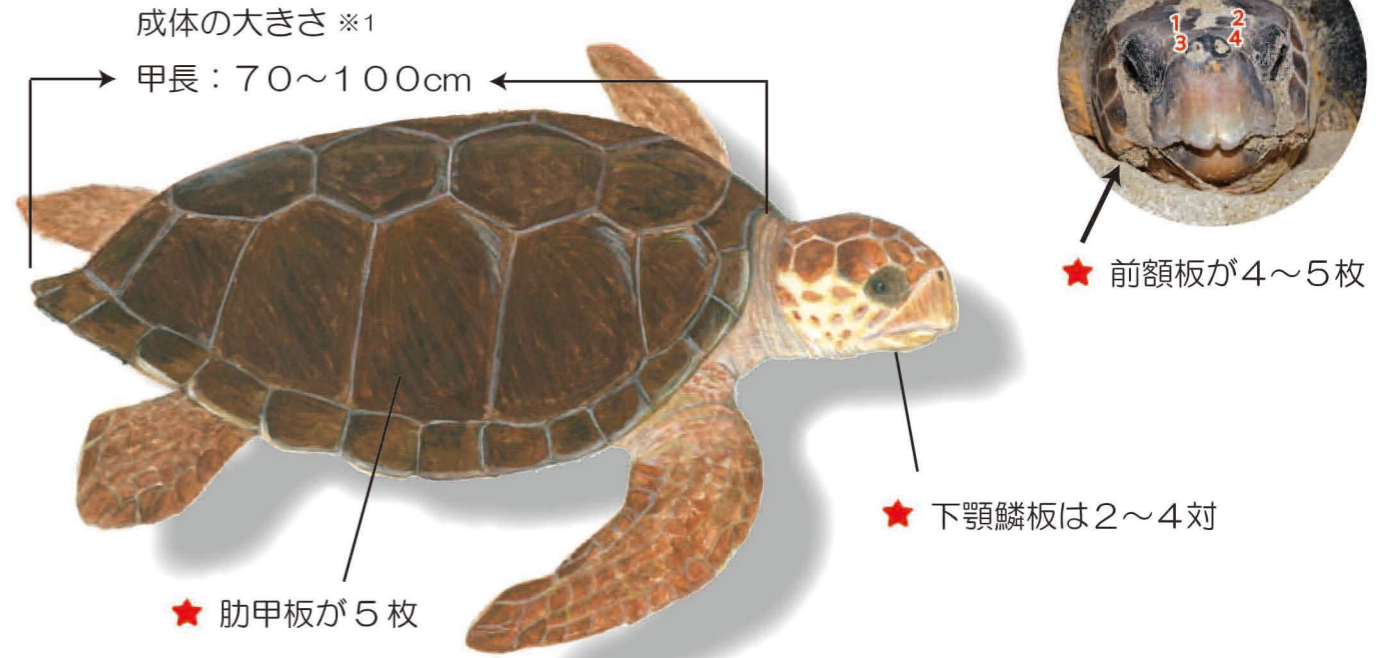


### 頭部



## アカウミガメ

分布：温帯・亜熱帯。日本は北太平洋における唯一の繁殖地  
食性：貝類、軟体動物、甲殻類

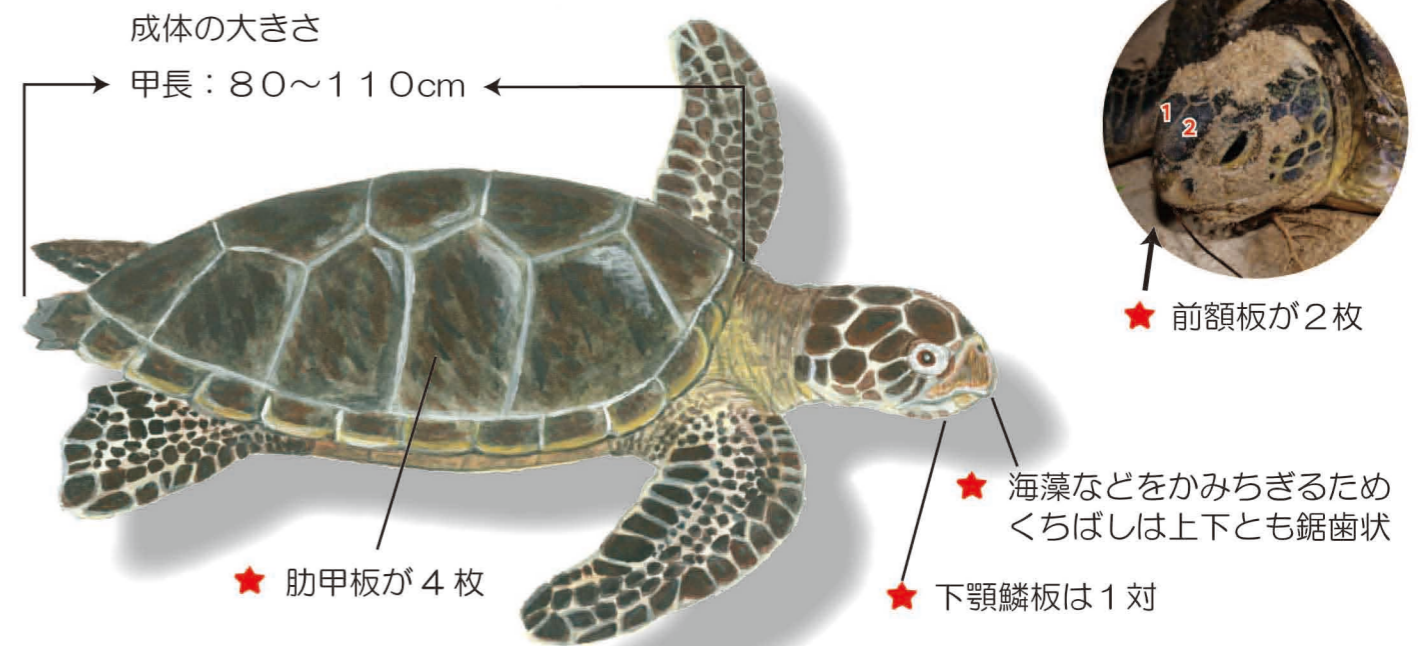


- ★ 体全体が赤っぽい
- ★ 頭が大きく、甲羅に付着生物が多い
- ★ 奄美での産卵時期は、5月~7月。産卵ピークは5~6月。野生下での性成熟は30年以上かかると推定される。

※1) カメ類は頸を伸び縮みさせるため、体の大きさの目安は一般的に、背甲の正中線上の長さを測る「甲長」で表す。

## アオウミガメ

分布：熱帯・亜熱帯  
食性：海藻、海草類。ウミガメ類の唯一の草食性。



- ★ 腹面は白色
- ★ 頭が丸く小さく、甲羅に付着生物が少ない
- ★ 奄美での産卵時期は、5月~7月。産卵ピークは6~7月。野生下での性成熟は20年前後かかると推定される。

## 産卵について

ウミガメは数年おきに産卵のため砂浜に上陸します。

ウミガメは、産卵の時にだけ夜砂浜に上陸します。2～3週間おきに上陸し、1シーズンに数回産卵を行います。また、産卵する日の夕方頃、沖から産卵する浜を偵察します。

上陸したからといって必ずしも産卵するわけではなく、物音や外灯などの明かりに驚いたり、防波堤などに阻まれたりして海に引き返してしまうこともあります。



## 足跡

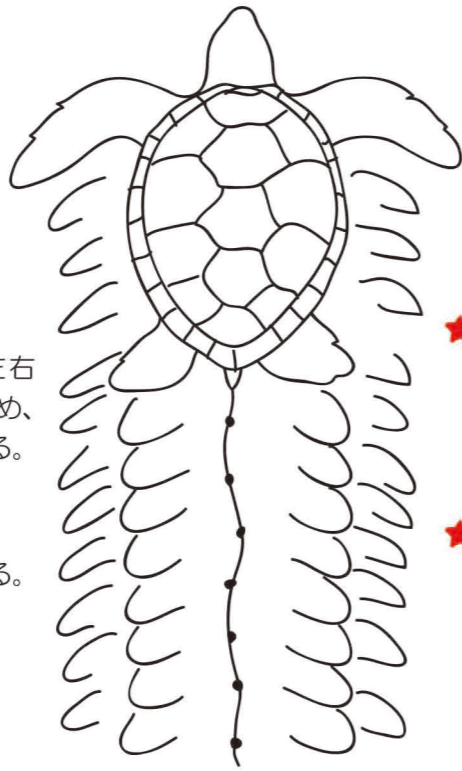
砂浜に残っている足跡から、種類、上陸した数、産卵の有無を知ることが出来ます。

### アカウミガメ



- ★ 足跡  
クロールのように左右ばらばらに動かすため、足跡は互い違いに残る。
- ★ 尾の跡  
不規則に振られている。

### アオウミガメ



- ★ 足跡  
バタフライのように手足を同時に出して進むため、足跡は左右対称に残る。
- ★ 尾の跡  
直線的で所々くぼみがある。

## 足跡調査

奄美野生生物保護センターでは、今年から奄美海洋生物研究会や大和村役場と協力をして、大和村内の海岸調査を始めました。その結果、5月から8月までの上陸・産卵数は以下の表のようになり、新たな産卵浜が確認されるなど、大きな成果となりました。



調査地	アカウミガメ		アオウミガメ		不明	
	上陸	産卵	上陸	産卵	上陸	産卵
大和村内 17ヶ所	181	67	35	17	40	19



## 沖永良部島での活動

沖永良部島では、ウミガメの調査が熱心に行われています。約100名のボランティアが参加しているそうです。奄美大島でも、今シーズンから本格的な調査が始まりました。ウミガメに対する関心が、他の島々にも広がっていけばよいですね。

## 孵化（ふか）

産卵から約2か月後に孵化し、砂の中から地上へ、そして海へ旅立ちます。



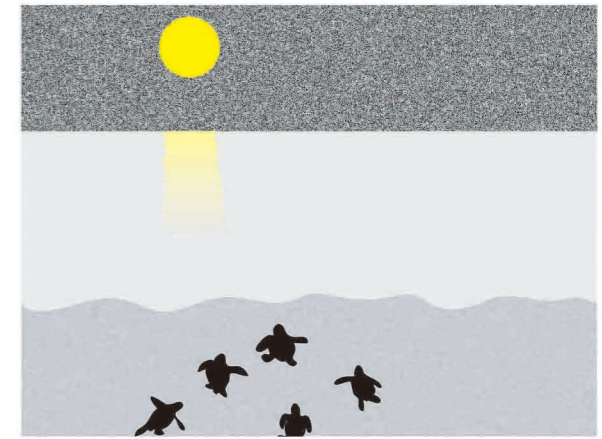
子ガメの性別は砂の中の温度によって決まります。約29℃より高いとメス、低いとオスになります。砂の中で育った子ガメは、兄弟たちと力を合わせて約1週間かけて砂の天井を崩し、地上へ脱出します。脱出する時間帯は夜です。その後子ガメは海に向かいますが、これは明るい方向に向かう習性があるためです。しかし外灯などの強い明かりがあると、子ガメたちが海に出ていくのを妨げてしまいます。



## 子ガメの能力

子ガメは沖に出るまで、さまざまな能力を使います。

- ★ 走光性：明るい方向に向かう習性
- ★ フレンジー：砂から出てきた10～20時間が一番元気で、活発に前肢を動かします。これは、出来るだけ早く岸から離れ、沖に出るためです。
- ★ 地磁気：海に向かって進む間に、方向を知るための地磁気を感じる能力を身につけます。この能力のおかげで、自分の位置を知り、大回遊をする際、適切な場所へと移動できると言われています。



## イノシシによる卵の食害

今年、奄美大島でイノシシによる卵の食害が多く確認されました。イノシシも在来種であり生態系の大事な一員です。そしてどんぐりの豊凶などによってその生息数が増減するため、来年以降も状況を見ていく必要があります。



## 守るために

ウミガメを守るためにどうすればよいでしょうか

産卵に適した砂浜を維持することが、ウミガメの保護につながります。しかし、砂浜の砂の減少、護岸工事による産卵適地の消失、外灯などによる母ガメ・子ガメへの妨害、漂流ゴミによる子ガメの帰海の妨害など、さまざまな問題が起こっています。全ての問題を解決するのはとても難しいことですが、ビーチクリーンや海岸近くの電灯を工夫するなど、まず自分たちで出来ることから始めてみませんか。



～大和村国直集落にて～  
子ガメに影響が少ない  
赤色の電灯に交換





## お知らせ

### アマミノクロウサギ交通事故防止キャンペーン

と き：平成 24 年 10 月 1 日～平成 24 年 10 月 31 日

【特別イベント】 あまくろがチラシ等の配布を行います。

と き：平成 24 年 10 月 6 日（ビッグⅡ）、10 月 8 日（A コープ瀬戸内店）

※雨天中止



## 報告

### マングローブ探検隊

と き：平成 24 年 7 月 30 日

場所：奄美市住用町（住用マングローブ）

マングローブの環境を学び、干潟にいるさまざまな生きものを観察し、最後はゴミ拾いも行いました。



### 鳥の観察会とバードセーバー作りを楽しもう

と き：平成 24 年 8 月 6 日

場所：奄美市笠利町（奄美パーク）

少しでも鳥の衝突事故を減らせるように、みんなで気持ちを込めて作りました。



### 夜の観察会 in フォレストポリス

と き：平成 24 年 8 月 11 日

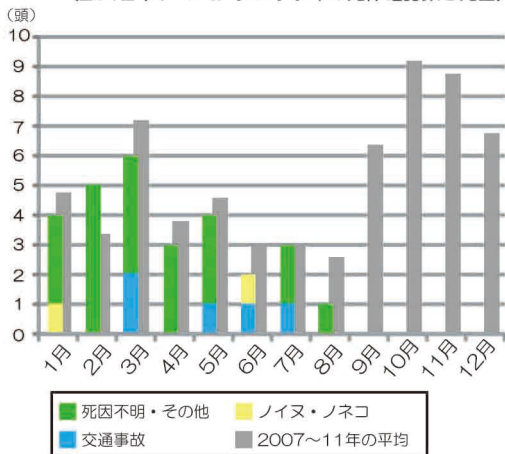
場所：大和村（奄美フォレストポリス）

虫や水生生物、星空を観察しました。観察会を通して奄美の森の豊かさを実感することが出来ました。



## アマミノクロウサギ死体確認数

(2012年 アマミノクロウサギの死体確認数と死因)



※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。



## 奄美に住む動物たちのために、あなたができること

### 安全運転

林道では20km/h以下で走行しましょう。

### 犬・ねこの適正飼育

#### 捨てない

最後まで責任をもって飼いましょう

#### 不妊・去勢手術

繁殖制限することで、望まれない命を生み出さないこと、ペットの健康を守ることにあります。

#### マイクロチップ

ペットの確実な身元証明になります。



### 犬・ねこに関するお知らせ

ペットは愛情をもって飼いましょう。子どもの頃は可愛くてしかたないと思いますが、寿命は何年にもなります。その間変わらずに、愛情をもって世話をしてください。時には言うことを聞かず大変なこともあると思いますが、ペットにも心があります。ペットの気持ちを考えてあげることも大切です。また、今は飼わないと決めることもペットへの愛です。

## いきものおもしろ写真館



### オビトカゲモドキ

徳之島のみ生息する固有亜種。白いラインが特徴。すると目つきですが、全体的に可愛らしいフォルムです。コレクターにとっても人気があり、違法採取されていること、森林伐採による生息地の縮小によって数を減らしています。

## 編集後記



運動会の時期となりました。この日のために、競技の練習や体力作りをしている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ここ数年、私にとっては年に一度の全力疾走をする日ですが、あまり準備をせずに臨むので、酷い筋肉痛に襲われます。みなさまも、体には十分に気を付け運動を楽しみましょう。